

令和4年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価 (3月22日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①特色ある国際理解教育と「総合的な探究の時間」に係る研究と実践をとおして、探究的でグローバルな視野を持つ人材を育成する。</p> <p>②「育てたい生徒像」を見据え、共通性と多様性のバランスに配慮した教育課程の策定と実施を図るとともに、特別活動の充実をめざす。</p> <p>③「主体的・対話的で深い学び」をめざし、授業改善を実施する。</p> <p>④基礎的な基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視し、主体的に学習に取り組む態度を養う。</p>	<p>①特色ある国際理解教育を発展させ、姉妹校とのオンライン交流を実施する。また、新たに姉妹校となる対象校を検討する。</p> <p>・SDGsに係わる探究活動を継続させ、教科の枠を超えた探究活動発展を目指す。</p> <p>③④「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業を実践し、生徒の思考力・判断力・表現力を育成するとともに、主体的に学ぶ意欲を向上させる。</p>	<p>①姉妹校交流は、オンラインや文通等で姉妹校交流を継続する。</p> <p>・新たに海外の学校との姉妹校締結に向けて情報収集を行い締結できる学校を検討する。</p> <p>・SDGsに係わる探究活動について、昨年度までの取組の継続・精選・見直し等検討を行い、今後3年間の見直しを立て実践する。</p> <p>③④「主体的・対話的で深い学び」をテーマとした授業改善を行い、生徒の思考力・判断力・表現力が高まる授業を実践する。また、職員間で授業改善のための情報交換ができたか。</p> <p>・1人1台端末を活用し、主体的に学ぶ意欲を向上させるための授業を実践する。</p>	<p>①姉妹校との交流を行うことができたか。また、生徒が国際理解教育を意識した実践的な活動を行うことができたか。</p> <p>・新規姉妹校との締結ができたか。</p> <p>・探究活動を全学年で見直しをもって取り組むことができたか。</p> <p>③④思考力・判断力・表現力が高まる授業を実践できたか。また、職員で意見交換し情報共有ができたか。</p> <p>・生徒対象のアンケート結果から1人1台端末が有効に活用されたと判断できるか。</p>	<p>①姉妹校との交流は、文化祭の様子をビデオレターにして送ることができた。来年度からの相互の行き来について段取りをつけることができた。ユネスコスクールとして服のチカラプロジェクトではユネスコ委員会が中心となり近隣の3つの小学校と連携し活動し、先方から感謝状を受け取ることができた。</p> <p>・新規姉妹校締結については、達成することができなかった。</p> <p>・SDGsに係る探究活動では、オンラインを活用し1年間探究した成果を中学校・高校に発表することができた。</p> <p>③④「主体的・対話的で深い学び」を実践するため、意見交換、情報共有を行った。授業観察、研究授業を通して、ICT機器を活用した授業実践を行い、情報共有を行った。</p>	<p>①現地との時差もありリアルタイムでの交流が難しい。また、先方とのやり取りでは、英語でのやり取りのため特定の職員に頼らざるを得ない状況である。翻訳ソフトなどの導入も検討する。</p> <p>・ユネスコスクールとして服のチカラプロジェクトだけでなくユネスコ委員会を動かし近隣のインターナショナルスクールとの交流を開始する。</p> <p>・新規姉妹校との締結のためのアプローチする方法を検討する。</p> <p>・探究活動について、新規の活動は職員全体での展開を意識することと、継続を意識した引継ぎを確実に進行。</p> <p>③④研究授業を通して授業改善と、ICT機器の活用実践例が共有できたが、学校全体で取り組む意識が不足している。次年度は定期的な研修会と授業改善の意見交換を行う必要がある。</p>	<p>①姉妹校との行き来の交流の再開、有馬イングリッシュの導入で国際理解教育が活性化することを期待したい。</p> <p>・探究学習において、テーマに仮説を立て、掘り下げていく活動での探究学習が有意義に機能している。</p> <p>・ICTを活用した意見交換等の交流活動は時代である。情報交換の内容については、テーマに沿ったより濃いものにする必要がある。</p> <p>③④「SDGsに係わる探究活動を継続させ、教科の枠を超えた探究活動」について、ICTを活用した授業づくりをテーマとした授業改善の取り組みと連携し、生徒の基礎学力の養成および生徒の主体的な学習態度を養うことを目指した取組を実施されていることは評価できる。</p>	<p>①姉妹校交流はオンラインを駆使したが、リアルタイムでの交流ができなかった。</p> <p>・ユネスコスクールとして「服のチカラプロジェクト」を行うことができたが、他の取組ができていない。</p> <p>・新規姉妹校締結について学校として考えをまとめる必要がある。</p> <p>・探究活動の成果発表を、中学校・高校も参加しての新しい取組ができたが、準備や運営に課題を残した。</p> <p>③④「主体的・対話的で深い学び」の実践を意識した授業見学や研究授業を行い、出席者の研修成果につながったが、学校全体で授業改善に取り組む意識が不足しているため、具体的な実践例の情報や報告を全体で共有することができていないことが課題である。</p>	<p>①通常の教育活動に近い形が戻っているが、従前にとらわれず新しい視点で姉妹校交流を継続していく。</p> <p>・ユネスコ委員の生徒と一緒に新規プロジェクトを企画し、国際理解教育を実践する。</p> <p>・新規姉妹校締結について学校としての方向性を議論する。</p> <p>・身近な課題を設定し意欲的な探究活動を目指す。また、新しい取組を積極的に取り入れる。</p> <p>③④常日頃から「主体的・対話的で深い学び」をテーマとした授業改善の意識を各職員が持つ。また、研究授業や定期的な研修会と授業改善の意見交換会を行い、具体事例・実践例の情報共有を行い、各職員が改善した授業を試みる。</p>
2 生徒指導・ 支援	<p>①部活動の充実をとおして自己理解や他者理解を深める支援を行う。</p> <p>②交通安全指導を通してマナーの向上と事故防止に取り組む。</p> <p>③人権尊重の精神および規範意識を高める取組を推進する。</p> <p>④生徒一人ひとりの個に応じた生徒支援体制の確立を図る。</p>	<p>①部活動の活動を充実させ、活動をとおして生徒の人格形成の支援を行う。</p> <p>③④「いじめ・学校生活についてのアンケート」と、教育相談を組織的に行う。また、生徒理解のための個人面談を実施し、問題発生時には、管理職、学年職員、保護者が連携し迅速な対応を行う。</p>	<p>①部活動顧問の適切な配置と顧問間の連携により、生徒が主体的に活動できるように支援する。</p> <p>③④年2回の「いじめ・学校生活についてのアンケート」と個人面談を実施し、いじめ問題等に初期対応できる体制を整える。問題発生時は、管理職、学年職員、保護者が連携し迅速な対応を図る。</p>	<p>①部活動調査において、主体的に取り組んだ生徒の割合が参加した生徒の9割を超えているか。</p> <p>③④いじめ問題の発生を防ぐことができたか。</p> <p>・問題発生時に、職員等で連携し、迅速で適切な対応を行うことができたか。</p>	<p>①一部の顧問に負担が偏っている現状は解決されなかった。部活動調査において、主体的に取り組んだ生徒の割合はほぼ9割となっており、概ね目標はクリアできた。</p> <p>③④年間2回の「いじめ・学校生活についてのアンケート」を実施した。その内容を基に担任による面談を実施し、生徒一人ひとりの把握に努めた。また、安全で安心な学校生活インターネットに関するトラブルを防止するために、講演会も実施した。</p>	<p>①顧問調整を慎重に行うことと、職員の部活動指導に関わる意識について共通理解を促す。主体的な活動を通じた生徒の人格形成については、基本的な挨拶や礼儀などを大事にすることで、自分たちの活動に誇りを持てるように指導を継続する。</p> <p>③④2回実施のアンケートからは、特に職員で共有する内容のものはなかった。今後も、いじめ問題やインターネットに関するトラブルの防止に努め、生徒一人一人が安全で安心した学校生活を送れるよう支援する。また、職員での情報共有を確実に進行。</p>	<p>①部活動調査で9割の生徒が主体的に取り組んだという回答は高い評価に値する。日常の活動を通じた生徒の人格形成については、基本的な挨拶や礼儀などを大事にすることで、自分たちの活動に誇りを持てるように指導を継続する。</p> <p>③④情報共有による協働支援体制を整え、迅速に関係機関と連携した適切な支援を行っていること、また特にSNS等のトラブル防止についての注意喚起に尽力されていることは評価できる。</p> <p>・一人で抱え込んでいる重い案件については生徒、保護者との面談がとても大事である。</p>	<p>①主体的な取組により生徒が満足度の高い活動を行っている。学校生活や行事などにも部活動の生徒が積極的に動けるようになってきた。今後、加入率を高め主体的に取り組める生徒数を増やしたい。</p> <p>③④いじめアンケートや面談をとおして、生徒一人ひとりの理解に努めることができた。今後は学校として組織的な取組や情報共有の在り方について更に検討を深めるとともに組織力をも充実させ、人権尊重と規範意識を高めるために計画的に支援を行っていく必要がある。</p>	<p>①部活動のより一層の主体的活動に向け、生徒自身が部活動に対する誇りや意識の高さを持てるように、礼儀や挨拶を部活動全体で取り組むことで「自負心」を養っていく。また、充実した学校生活を送るために部活動加入を積極的に勧める。</p> <p>③④教職員や生徒から得た個々の情報を定期的に共有できる機会を設定し、学校全体で、組織的に生徒一人ひとりを支援できるように体制を見直し、より充実した取組を実践する。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価(3月22日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①大学等における多様な入試形態を見据え、生徒一人ひとりの進路希望実現に向けたきめ細かな支援体制を充実させる。 ②教科における学習活動と進路指導との連携を図り、生涯にわたって基盤となるキャリア教育を実施する。	①入試動向情報を的確に把握し、担任団と情報を共有して生徒の希望進路の実現に向け支援する。 ・進路指導室の生徒の利用率を高める。  ②高大連携、インターンシップへの参加を安全かつ積極的に進める。	①教員向けガイダンスを実施し近年の入試状況を共有する。また生徒向けに大学の入試担当者を招き具体的な入試対策の講演会を開く。 ・進路指導室の資料の充実を図る。 ②テレワーク方式等のインターンシップを実施し生徒の就業体験機会を設ける。	①効果的なガイダンスや講演が実施できたか。 ・進路指導室の利便性が整ったか。  ②インターンシップを実施することができたか。	①生徒向け入試対策講演会(総合型・公募制型)を実施し、三大学に参加していただいた。生徒の参加は17名であり、生徒にも好評であった。  ②対面でのインターンシップを実施し9名が参加した。	①参加生徒数の把握と実施スケジュール、講演する大学の選定とスケジュールの調整に課題が残った。現在次年度に向けて講演可能大学を調査している。今後生徒の参加者を多くするため、生徒のニーズに合った学校選びと、生徒へのアプローチの仕方を模索する。 ②参加生徒数の拡大が課題であると同時に受け入れ先企業との連携再構築を進める。	①大学等の多様な入試形態を見据え、入試動向情報を的確に把握し生徒一人ひとりの進路希望に沿った進路実現を支援されていることが達成状況に報告されており評価できる。 ・3大学を招いての入試対策講演会には、さらに多くの生徒の参加が望まれる。 ②インターンシップ参加者が増える方策の検討をお願いします。	①総合型、公募推薦型入試対策講演会に参加した生徒の約9割が受験で合格を得ることができたことから講演会の効果は大きいとみることができる。次年度は、講演会に参加する学校数を増やしたい。 ②受入れ可能な企業と生徒の希望がマッチしたインターンシップは安全に実施することができた。次年度は参加者を増やしたい。	①来年度の講演依頼を了承していただいた大学と具体的な交渉を継続して行う。また、積極的に他の大学へも講演会の参加を依頼する。  ②進路選択におけるインターンシップの重要性をガイダンス等で周知する。
4	地域等との協働	①生徒一人ひとりが社会参画意識をもって地域や世界とつながる意識を高める支援を行う。 ②地域等と連携・協働した災害への備え、対応をさらに深める。	①学校周辺の美化活動を実施し、地域に愛される学校を目指す。  ・ボランティア活動や地域への貢献活動を通じて、社会の一員としての意識を醸成する。  ②DIG研修や避難訓練、地域の行政機関と連携した防災体験訓練をとおして防災意識を高める。	①各学年で年1回、行事ごとに委員会や部活動の生徒で学校周辺のゴミ拾い活動を実施する。 ・ボランティア活動の案内を広く周知し、生徒の参加を促す。部活動等においても積極的に地域への貢献活動に参加する。  ②防災委員を中心としたDIG研修や避難訓練、地域の行政機関と連携した防災体験訓練を実施し、防災意識を高める。	①各学年で1回、委員会や部活動等で、学校周辺のゴミ拾い活動を実施できたか。 ・地域に参画する意識が向上し、個人でのボランティア活動、部活動での地域貢献活動への参加があったか。  ②DIG研修と地域の行政機関と連携した防災体験訓練を実施することができたか。 ・防災意識をもって訓練に参加することができたか。	①11月に1年生が学校周辺のゴミ拾いを実施した。2月には生徒会、部活動の生徒で学校周辺ゴミ拾い活動を実施した。 ・海老名市主催のイベントにいくつかの部活動が参加し地域の貢献ができた。ただし、個人でのボランティア活動を通じた地域貢献はできなかった。  ②DIG研修、2回の避難訓練、海老名市役所並びに海老名消防と連携した防災体験訓練をとおして、生徒の防災に対する意識を高めることができた。	①年に1回、全校生徒が個人で地域貢献活動に参加できるよう、生徒の意識向上を図る必要がある。そのために生徒会本部役員が啓発活動を行う等、地域貢献の意識を図る。 ・美化活動は、3つの学年の活動が時期が偏らないように計画し、年間を通じた活動を計画する。  ②DIG研修を各HRの防災委員主導で実施できるように計画的に行っていきたい。また、避難訓練や防災体験訓練を実施し、防災意識を高められるよう取り組んでいきたい。	①他の県立高校と比較して、学校(生徒)と地域との相互意識が高いと感じるので、生徒側からのボランティア等のアイデア出しがより活発になるような仕掛けが望まれる。 ②DIG研修、避難訓練や防災体験訓練を行い防災意識を高めたことは評価できる。 ・防災体験訓練に加え、共助について考える防災教育にも取り組む必要があると思います。高校生として災害時に何ができるか、有事の際に自分の住む地域で、動ける力をつけて欲しいと思います。	①美化活動を年2回実施したが、全学年で実施することはできなかつた。全校生徒が参加できる活動方法とゴミ拾い活動以外の活動を検討したい。 ・海老名市主催のイベントへの参加とボランティア活動に参加することができたが、地域との連携ができていない。 ②DIG研修、避難訓練、また、海老名市役所、海老名消防と連携した防災体験訓練をとおして、防災に対する意識を高めることができた。	①生徒同士が、ゴミ拾い活動以外にもどんな地域貢献活動ができるかを意見交換する機会を作る。 ・地域との連携を本格的に復活させる。近隣の小学校への部活動の派遣や、海老名市との連携などを積極的に行う。また生徒の主体的にボランティアに参加する意識を醸成する。 ②様々な体験や訓練をとおして防災意識は高まっているので、災害時に何ができるか、どう動けるかなど共助について考えさせることも含めて計画を立てる。
5	学校管理 学校運営	①ICT環境の整備改善を進めるとともに、HP等を活用して本校の教育活動に係る情報発信を充実させる。 ②安心・安全な教育環境の整備を充実させるとともに、事故・不祥事防止のさらなる徹底を図る。 ③働き方改革の推進に向けて、組織的な取組を進めていく。	①ICT環境の整備改善を進め、教職員の機器活用のスキルアップを行う。 ・HPの更新頻度を上げ、最新の情報を発信する。  ③仕事の効率化に向け、ノー残業デーを設ける。	①ICT環境の整備を進める。 ・機器活用の研修の機会を設け、機器活用のスキルアップを図る。  ・Wi-Fiの環境の改善を進める。  ・各グループごとに情報発信を行い、HPの更新頻度を上げ、最新情報を提示する。	①ICT環境の整備を進めることができたか。 ・職員の8割が、機器活用について自身のスキルアップを図ることができたか。 ・Wi-Fiの環境がよくなり、効率よく機器の活用を行えたか。 ・HPの更新頻度が1カ月以上滞っていないか。また、各グループごとに情報を発信することができたか。 ③職員の8割が、年間を通じてノー残業デーを設けることができたか。	①指導者向けの端末が導入される等環境の整備を進めることができた。 ・機器活用のスキルアップは、個々の職員に任せきりで、効率の良い活用はできていない。 ・教室のWi-Fi環境が改善され機器の活用が効率よくできるようになった。 ・HPについては、各グループだけでなく、部活動顧問が更新できるようにし、更新頻度を上げることができた。 ③職員の4割弱が週に1回、定時退勤ができた。 なお、職員の半数が週1回の定時退勤を70%達成できている。各職員にはノー残業デーの意識は定着している。	①ICT機器活用の実践に向けて、研修会の定期的な実施、活用実践例の集約・提示を通して、有効な機器活用と個々の職員のスキルアップを図る。  ・HP更新方法の研修会を実施し、多くの職員がHPを更新できるようにする。  ③業務量の偏りがあり、業務量均等化に向けた人員配置等見直しをグループで検討する。また、勤務時間外の業務過多も課題であり、業務効率化に向けた方策を模索する。	①ICT機器活用については、それぞれの科目の特性を生かし、内容重視で進めるべきと思われる。デジタル進化した授業と、あえてアナログの長所を生かした授業の双方が存在することで、生徒の思考により一層の幅と奥行きが生まれ、高い教育成果が得られると考えられる。 ・教職員のスキルアップは情報インストラクターが校内に常駐していると取り組み易い。 ③働き方改革は喫緊の課題であるが、ノー残業デーの意識向上等、具体的な実践していることは評価できる。	①ICT環境の整備を進めることができたか、それを活用する機会と端末管理の環境を整備できなかった。機器の導入により一部職員の活用が見られたが、職員全体への活用の広がりには至らなかった。 ・HPの更新頻度は昨年度に比べて向上したが、更新に関わった職員が一部のため、グループや学年等で更新頻度に差が出た。  ③ノー残業デーの意識付けをできたが、取得できない職員もおり、8割以上の取得に向けての課題が残った。	①ICT機器の活用効率を上げるため、端末の管理環境を整える。また、授業の見学を活用して授業内での使用機器の導入により一部職員の活用をさらに活性化させる。 ・HPの更新方法の研修会等を開催し、更新頻度を上げることで学校の情報を積極的に発信する。  ③業務量の均等化を考えた業務の分担を行う。副担任の業務を増やし、担任の業務量を減らすことを目指す。

